



申13号 2023年度夏季手当等に関する申し入れ 第3回団体交渉を行う！①

再考を求めるも応じず **怒**

※社員一人ひとりのコロナ禍の3年間における奮闘と黒字達成への尽力、物価上昇等に対する生活実感を踏まえつつ「モードチェンジ」に向けた一層のチャレンジを強く期待し、特に支給

基準内
賃金

2.5ヶ月 + 5万円

要求に届いていない！
職場の努力に報いていない！
納得できない！

支給日(予定)6月27日(火)

平均基準内賃金：339,476円 平均支給額：898,700円

対象社員数：45,700人 平均年齢：39.5歳

交渉の最後に行った組合の主な主張

- ・3年間コロナ禍における特別手当を求め続け、労使議論を積み上げた結果として、一定の要求の前進は確認できるものの、要求には届かない回答で納得できるものではない。
- ・第2回交渉以降の奮闘、現実としては、日々の安全・安定輸送と台風や大雨などの災害に対する復旧・運行確保に向けて昼夜問わず奮闘してきていることや、ジョブローテーションの運用において、一部職場で会社が述べていた趣旨や交渉確認も逸脱している運用が行われていること、人権無視・人格破壊のパワハラと言える行為に対し、不満や怒りの声が多くあげられている。收支の構造改革の名の下で、安全が蔑ろになり人格をも否定され、生活苦が強いられ続けることは労働組合としては認めることはできない。
- ・組合員・社員の力、労働力なくして、そしてモチベーション維持・向上なくして会社の持続的成長はなし得ないと議論してきた。この問題意識と危機感は「離職増」「採用減」の現実のなか、さらに高まっている。
- ・組合員・社員は日々弛まぬ努力を続け、家族も支え続けてきた結果、3期ぶりの黒字転換を果たしてきた。
- ・「目標に届いていない」「楽観できない」「順風満帆とは言い切れない」「新たな定常状態」など賃金抑制の新たな理由でいつまでもたっても厳しい経営環境と言われ、回答は「最大限」と繰り返され、コロナ禍前の手当水準に戻さないとの姿勢であるならば認めることはできない。
- ・職場からは「経営側と現場の認識の違い・溝の深さを感じる」という声も出ている。私たちが訴えてきた生活・労働の実態や実感がどこまで経営側に伝わり、認識が深められているのか問題意識がある。
- ・繰り返される「最大限の回答」に納得感が得られない。

要求に届いていない！席上妥結の判断には至らない！組織議論し判断する！

会社の回答

業績状況はこの間も示してきた。業績、中長期的な経営状況は油断できるものではないことを前提にした上で、取り巻く要素を勘案し、厳しい状況下のなか、出来る限りの判断をしてきた。一定の回復は見られるが、努力を積み上げてきた結果だが、想定していたものに届かなかった。黒字への様々な努力はしっかり受け止める。3年間、医療部門含めて感染対策に努力頂いた。コロナから明けて苦労していることも受け止めている。議論を積み重ねてきたことを踏まえて熟慮を重ねてきた。慎重に熟慮した結果の回答である。